



E-Mail: taniyama-cc@Lagoonne.jp URL: <https://catholic-tc.jp>

発行人: 盛 克志神父 編集委員: 上原敏子、上釜照美、徳永珠美

時の流れ



カトリック谷山教会主任司祭 盛 克志



一月は往ぬる、二月は逃げる、三月は去ると日本の社会でよく言われていますが、この三カ月は、特に日本では様々な意味で準備の期間でしょうか。

「冬来たりなば、春遠からじ」と昔から言われているように 厳しい冬がくれば、春はすぐその隣、日々の営みの厳しい冬もいつまでも続くわけではなく、希望に満ちた未来がすぐ後ろに控えているということでしょう。

そして私たちにとっては主の復活へ迎える準備期間でもあります。

時間というものを考えるときに「クロノス」と「カイロス」の概念は私たちが時を生きるときによりヒントを与えてくれます。どちらもギリシャ神話の神様の名前からとられたもので、どちらも「時」を意味します。

「クロノス」は時計やカレンダーで計れる「量的な時間」(1分は60秒、1時間は60分、1日は24時間など)です。過去から現在、未来へと決まった速度・決まった方向で機械的に流れる連続した時間を表します。客観的な時間のことです。

「カイロス」は計ることのできない、かけがえのない「質的な時」です。主観的そして心理的な「時」を表します。「機会(チャンス)」や「タイミング」といった意味合いもあります。また、カイロスには霊的な感覚も伴います。神様が与えられた「時」であり、神様が導いておられる「時」です。

「何事にも時があり 天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」(コヘレトの言葉 3章1節)

「カイロス」は神様の摂理によって与えられた人間の応答を求める時で、まさしく、主観的な「時」です。

「愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。時(カイロス)をよく用いなさい。」(エフェソの信徒への手紙 5章15-16)

この現実の「クロノス」の世界で、神様の声を聴き、「カイロス」を求め、それを生きること努めていきましょう。主はいつでもどこでも、共におられます。

2月の聖人から 2024年

ハンマ神父様、久保終身助祭様ご逝去

2月5日 日本26聖人殉教者 祝日

1597年殉教

1549年、聖フランシスコ・ザビエルが来日してから、キリスト教は大名や武士の間に広まっていった。豊臣秀吉も最初はキリスト教に好意的であり、宣教師を保護したが、九州征伐のときに一部の宣教師を国外に追放するという命令を出し、教会を破壊するなど公の宣教を禁止した。しかし秀吉は貿易の発展には前向きであり、1593年にフランシスコ会士ペトロ・バプチスタと通商条約を結び、京都での宣教を許可した。信徒は増し、30万人を超えたといわれている。1596年に四国の海岸でフィリピンからメキシコに行くスペインの船が座礁したとき、積み荷を秀吉が没収するという「サン・フェリペ号事件」が起こった。そのためフランシスコ会が、秀吉の行為を条約違反だとしてスペイン船側の代弁をしたために彼は憤慨し、京都、大阪周辺のフランシスコ会士、イエズス会士、キリスト信徒ら24名を捕え、死刑を命じた。その中には、幼い子どもの信徒3人もいた。彼らは、京都、堺、大阪市内を引き回されたのち、長崎までの道のりを歩かされた。その間、彼らの世話をした2人の信徒も自ら一行に加わった。長崎の西坂に26の十字架が立てられ、はりつけになった彼らは、最期までともに祈り、聖歌を歌いながら殉教を遂げた。彼らの死は日本の教会の初穂となり、この地はキリシタンの巡礼地となった。長崎26聖人記念館には遺品の一部が安置されている。1862年6月8日に聖人の列に加えられた。1997年2月5日は日本26聖人殉教400年祭にあたり、記念式典が催された。

(聖パウロ女子修道会)



2月22日 聖ペトロの使徒座 祝日



12使徒の1人で、使徒の頭であった聖ペトロは、キリストから「あなたはペトロ。わたしはこの岩(ペトロ)の上にわたしの教会を建てる」

(マタイ 16.18)と言われ、教会の礎としての使命をゆだねられた。彼は教会の最初の司教としてアンチオキアに使徒座を置き、その後ローマへ宣教に行き、バチカンの丘に使徒座の基礎を築いた。古代ローマでは、2月22日には亡くなった家族を記念する習慣があり、初代教会もその慣習を取り入れ、教会の礎である聖ペトロを記念していた。4世紀に、聖アンブロジオ(12.7参照)は「ペトロがいるところに教会がある。教会があるところに、キリストがいる」としてこの日の意味を明確にし、最高牧者としてのペトロの使命を浮き彫りにした。聖ペトロの使命は、今日まで代々の教皇(現在266代教皇フランシスコ)に受け継がれている。

(聖パウロ女子修道会)

ヨルダン・ハンマ神父

1月6日帰天 享年89歳

1934年ドイツに生まれる
1963年来日以来61年間
主に鹿児島のカトリック教会で司祭として勤務され
又、カトリック学園や善き
牧者学園理事長や各幼稚園の園長を歴任された。



1月13日(土)告別式



メニヒ神父様、同じドイツの仲間、友人として、雨水さんは、信徒の代表として、郡山名誉司教は、教区の代表としてそれぞれ在りし日のハンマ神父様を偲んで語られた。

**お二人の上に永遠の安息が与えられますように！
安らかに憩わんことを アーメン！**

幼いころ「久保のおじさん」と呼んでいた。当時の面影を胸に司式するのは、福崎神父。

1月8日帰天 1月10日告別式

パウロ久保俊弘終身助祭
(享年92歳)

子供のような心で、穏やかな父であった。妻のふも子さんをとても愛しておられた。
(長男・一郎氏)



久保俊弘氏は、薬剤師の免許を持ちながら高校教諭を定年までされ、その後施設の園長、そして助祭になられ、とても多才な方でした。ありがとうございました。

1月21日(日) キリスト教一致祈禱会
日本聖公会鹿児島復活教会

谷山教会から信徒8名、レデンプ
トールのシスター3名、純心のシス
ター4名、係の神父1名、優秀でし
た。とても楽しかったですよ。来年
は、カトリックが当番になっています。



十 主の平安

谷山教会の皆様、クリスマスも終わり、正月が過ぎて普段の生活を取り戻していることと思います。

出水の教会の周りでは梅の花が咲き誇っています。雪が降ったり、気温が下がり寒い日が続いています。2月1日は旧暦では、まだ12月22日となっております。今から寒さが更に強くなると思うだけで、鳥肌が立ちます。2月は「きさらぎ」とも言います。「衣を更に着る＝衣(き)更(さら)着」という説がありますが、旧暦で如月の季節は春先でもあり、温くなるはずと素人は思ってしまうのです。いずれにしろ、これから寒くなる季節に合わせて着るものを用意しておけば風邪や流行り病にならないように、私たちも常日頃からみ言葉であるキリスト・イエス様を重ね着をして芯から強く心を保ちたいものですね。

ヤコブ・福崎英雄神父

動物以上のもの

人間は、目的を失った単なる生存には耐えられない。

人間は他者との関係を粗末にしながら幸福であることはできぬ。

人間だけが、生の意味と死後のことを考える能力をもつ。

ハンス・ハヌス師
―心に残ることばより―

丹後の教会訪問記 (10)

谷山教会 9班 岩崎正幸

レデンプトール会舞鶴修道院で朝食をいただき、9時からのミサを待ちます。このとき、2022年8月は、京都教区のすべての小教区でのミサが中止されていたので、特別な意向の非公開ミサです。ある信者さんの依頼とのこと。その方ももとは大宮教会の出身で、頭島神父様を小さいころからよく知っているとのことでした。さて、ミサのあと、谷口神父様に丹後地区、残りの教会を案内していただきます。もう徒歩での訪問ではないので、自分の中では巡礼という意識はほぼなくなってしまったのですが、舞鶴にはもう一つ、東舞鶴教会があります。この規模の市に教会が2つというのはどうしてなのかな、と思ったのですが、舞鶴という街自体が、西と東で性格のことなる別の街、という印象です。西は城下町、東は港町で、別々に栄えてきたようなのです。東舞鶴教会は、西とは別の小教区になっています。この教会も、レデンプトール会の神父様が司牧されているところ。谷口神父様が教会の錠を開け、案内していただきました。おそらく献堂は西舞鶴教会と同じころなのではないかと思えます。この東舞鶴教会には、京極マリアゆかりの地の案内図がありました。京極マリアは、江戸時代の初期、幕府からにらまれながらもこの丹後の地で信仰を全うされた女性です。でも残念ながらゆかりの地を訪ねることはできませんでした。谷口神父様が鉄道の便のよいところまで、と福知山まで送ってくださることになりました。この地区は、レデンプトール会の神父様と、教区の神父様が交代でミサをされる、京都教区では一般的な共同宣教司牧地区です。高速道路も使って車で30分ほど、二日ぶりに福知山に戻ってきました。そういえば、京都丹後鉄道に乗り換えたとき、教会らしき建物を見たような、と谷口神父様に話したら、ああそれは結婚式場ですよ、と言われてしまいました。結婚式場の方が教会っぽく見えるという、地方の街ではありがちな光景だったわけですね。福知山教会は、最近建て替えられたようで、とても現代的な作り。明るく開放的で、機能的な教会、と感じました。谷口神父様の話によると、多国籍の教会で、若い人も多くミサに来る、とのことでした。駅のすぐそば、隣に幼稚園があり、これからの宣教の拠点という明るいイメージを持つことができました。教会前でこの幼稚園の先生とお会いできて、ちょっとだけ話をしました。鹿児島にもレデンプトール会の神父様方の教会があって、そこから来ました、と自己紹介をしたのでした。そして、谷口神父様に福知山駅まで送っていただき、今回の丹後の教会訪問を終えたのです。

10回に亘って巡礼の原稿をお寄せいただきありがとうございました。これで、最終回となりました。また次の巡礼のお話などお聞かせいただけましたら嬉しいです。

広報より



(福知山教会正面入り口)

令和6年(2024年)谷山教会02月の予定と祝日表(02月01日~02月29日)

日 時		典礼と行事	朗読奉仕者	掃除当番	班会
1日	木	6:30 朝ミサ			
2日	金	祝日 6:30 主の奉献 初金ミサ			
3日	土	記念日 19:00 福者ユスト高山右近殉教者 年間第5主日のミサ		④	教会
4日	日	年間第5主日 9時ミサ 下瀬智久神父様 初ミサ(レデンプトル会) ミサ後茶話会	④		
5日	月	記念日 6:30 日本26聖人殉教者 朝ミサ			
6日	火	記念日 6:30 聖アガタおとめ殉教者 朝ミサ			
7日	水	19:00 召命ミサ			
8日	木	6:30 朝ミサ			
9日	金	6:30 朝ミサ			
10日	土	記念日 19:00 聖スコラスチカおとめ 年間第6主日のミサ		⑤・⑪	教会
11日	日	年間第6主日 15:00~役員会 *世界病者の日	⑤・⑪		
12日	月	6:30 朝ミサ			
13日	火	6:30 朝ミサ			
14日	水	記念日 19:00 聖チリロ隠世修道者 聖メトジオ司教 灰の水曜日 四旬節(大斎・小斎)	今月の行事当番班は⑥・⑦班		
15日	木	6:30 朝ミサ			
16日	金	6:30 朝ミサ			
17日	土	19:00 四旬節第1主日のミサ(聖母の土曜日)		⑥・⑦	教会
18日	日	6:30&9:00 四旬節第1主日 9時ミサ後司牧評議会 コミチウム13:30		⑥・⑦	
19日	月	6:30 朝ミサ			
20日	火	6:30 朝ミサ			
21日	水	19:00 召命ミサ			
22日	木	祝日 6:30 聖ペトロの使徒座 朝ミサ			
23日	金	6:30 朝ミサ			
24日	土	19:00 四旬節第2主日のミサ		⑧・⑨	教会
25日	日	6:30&9:00 四旬節第2主日	⑧・⑨		
26日	月	6:30 朝ミサ			
27日	火	6:30 朝ミサ			
28日	水	19:00 召命ミサ			
29日	木	6:30 朝ミサ			
1日	金	6:30 初金ミサ			

ロザリオの祈り	毎週火曜日 10:00~	6, 13, 20, 27日
レジオ・マリエ	毎週水曜日 13:30~	7, 14, 21, 28日
聖書と教理 - II	毎週金曜日 10:00~12:00	2月の講座はありません。

* 3/9・10のミサ中とミサ後黙想会を予定しています。指導司祭は福崎英雄神父様。

*まもなく年度末をむかえるにあたり、ミサ献金・維持費の納入のご協力をお願いいたします。